

都の文化と 古を今につなぐ



① 鬼無里ふるさと資料館

Kinasa Furusato Museum

鬼無里の歴史・民俗・文化を知ることができる博物館です。宮大工 北村喜代松の飾り彫りが見事な祭屋台と神楽。村の経済を支えた麻、畳糸、炭焼き。北村四海の彫刻。和算家 寺島宗伴の算具。奥裾花溪谷の地質・化石など、鬼無里にまつわる数多くの貴重な資料が展示されています。一木彫りや透かし彫りの技法を用いた祭屋台は一見の価値あり。

[拡大マップ](#)

開館情報

- 住所** 鬼無里1659 (旅の駅鬼無里 目の前)
- TEL** 026-256-3270
- 休館日** 月曜日(祝休日と重なる場合はその翌日)
祝休日の翌日(土・日曜日、祝休日と重なる場合は開館)
※5月・8月・10月は無休
※12月29日～3月20日は冬季休館
- 開館時間** 9:00～16:30 (入館は16:00まで)
- 入館料** 一般200円 高校生100円 小中学生50円(20人以上は団体割引)



② 鬼無里神社

鬼無里274-イ

Kinasajinja Shrine

[拡大マップ](#)

創建は奈良時代末期と考えられている産土神。祭神は諏訪大明神で、武田信玄や大久保長安が社領を寄進、松代藩真田家も参拝した記録があります。祭屋台は1857(安政4)年創建で今なお現役。ふだんはふるさと資料館に展示されていますが、毎年5月3日の例大祭に町を練り歩きます。



③ 松巖寺

鬼無里320

Shoganji Temple

[拡大マップ](#)

平安時代の969(安和2)年、平維茂に討たれた紅葉の菩提寺として「地藏院」を建立し、供養したことが寺の始まりと言われ、境内には「紅葉の墓」といわれる石塔や、紅葉伝説にひかれて当地を訪れた川端康成の文学碑も残されています。本堂の格天井には花鳥画がはめられ、住職が寺や鬼女紅葉伝説の話の間かせてくれることも。



信玄の書状に記された「鬼無里」



鬼無里の地名の由来は、一夜山の鬼伝説(P8「一夜山」参照)、鬼女紅葉伝説(P1参照)などがありますが、「鬼無里」の地名が確認できる歴史文書で最も古いものは、武田信玄が重臣に宛てた書状です。1557年、上杉謙信との川中島の戦いの前後に出されたもので「鳥屋(現・長野市七二会)の敵が増強され、鬼無里に夜襲をかけるかもしれないとの報告があったので調べ、鬼無里への道筋の様子も見届けて報告せよ。あわせて鬼無里や鳥屋への絵図を作成し持参するように」と書かれており、鬼無里が上杉軍との戦いの要所のひとつだったことがわかります。この書状は現在、長野市立博物館に所蔵されており、信玄自筆のものとしても非常に貴重な資料です。

④ 土倉文珠堂

鬼無里16566-ロ

Tsuchikuramonjudo Temple

[MAP E-2](#)

木曾義仲の守護仏、弘法大師作の大聖智慧文珠菩薩が祀られていると伝えられています。1183(寿永2)年、北陸進攻で鬼無里を通過した木曾義仲が、この地に菩薩像を預けたまま没したため、仁科城主(現大町市)仁科盛遠がお堂を建てて義仲の第二子力寿丸を隠し、父の菩提を弔わせたとのことです。

